

令和3年度第2回豊山町地域包括ケアシステム推進協議会書面開催 ご意見及びご質問に対する回答書

1. 議題（1）令和3年度重点事業の進捗状況について

（1）健康長寿大学

意見	ICT講座はどのような内容だったのでしょうか。
回答	ICTを使用した交流促進を目的に、LINEやZOOMの使い方、YouTubeの視聴講座を実施しました。

意見	一般応募以外に開校前に募集枠を充足するための工夫はされたのでしょうか。
回答	地域サロン等へ出向きPRや高齢者訪問時に対象者に声掛けを実施し参加者を募りました。

意見	開校した効果と来年度に向けての受講内容等の改善を教えてください。
回答	<p>効果測定を参加前後の体力測定と、参加後のアンケートによって実施しました。体力測定の結果(表1)より、参加後の測定値が改善する方が多くみえました。また、アンケート結果(表2)より、多くの方に「生活の充実感」「健康保持や介護予防につながった」「自宅で運動するようになった」の変化があることがわかりました。</p> <p>3か月半間、計14回の開催でありましたが、上記より体力及び健康意識の向上を図れたと評価します。課題は、卒業後のフレイル予防の取り組みの継続ができるかであり、卒業後のモニタリングや支援を踏まえたプログラムの展開が必要であると考えます。</p>

表1 健康長寿大学参加前後の体力測定結果比較表

計測項目	目的	参加前後の計測ができた者	参加後の変化					
			改善	%	変化なし	%	悪化	%
握力(右)	全身筋力の状況を反映	12	9	75.0%	0	0.0%	3	25.0%
握力(左)		12	9	75.0%	0	0.0%	3	25.0%
開眼片足立ち(右)	転倒リスクを評価	12	4	33.3%	5	41.7%	3	25.0%
開眼片足立ち(左)		12	8	66.7%	3	25.0%	1	8.3%
5回立ち上がり	身体能力、転倒の危険性を評価	10	9	90.0%	0	0.0%	1	10.0%
歩行速度	身体能力を評価	6	5	83.3%	0	0.0%	1	16.7%

※片足立ち 変化なしの方は前後ともに測定上限値(60秒)に達した方

表2 健康長寿大学 最終回アンケート（最終回参加者13名に実施）

問1. 健康長寿大学に参加してからの変化の有無を教えてください		はい	いいえ	どちらでもない	未記入		
問1-1	生活が充実したように感じる	10	0	2	1		
問1-2	知り合いや交流する機会が増えた	7	1	4	1		
問1-3	健康保持や介護予防につながった	11	0	1	1		
問1-4	動作が機敏になった	5	1	6	1		
問1-5	疲れにくくなった	5	2	5	1		
問1-6	つまづいたり転んだりすることが少なくなった	6	1	5	1		
問1-7	立ったり座ったり、階段を登ったりすることが楽になった	7	1	4	1		
問1-8	自宅でも運動するようになった	11	0	1	1		
問1-9	自分の生活が健康的になった	9	0	3	1		
問1-10	自分の生活にメリハリができた	8	0	3	2		
問1-11	特に変わったことはない	6	4	1	2		
問2. 大学の感想を教えてください。		大変思う	やや思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	未記入
問2-1	大学への参加は、あなた自身の健康に役立っていると思いますか	9	0	0	1	0	3
問2-2	大学への参加は、あなたの体力維持に役立っていると思いますか	8	1	0	1	0	3
問2-3	大学への参加は、日常のストレス解消に役立っていると思いますか	4	5	0	1	0	3
		大変重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要でない	未記入
問2-4	大学で運動することは、あなたにとってどれくらい重要ですか	5	4	0	1	0	3
		大変楽しみ	やや楽しみ	どちらとも いえない	あまり楽し みでない	楽しみでない	未記入
問2-5	大学はあなたにとってどれくらい楽しみですか	6	3	0	1	0	3
		大変重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要でない	未記入
問2-6	大学の仲間との会話や交流は、あなたにとってどれくらい重要ですか	4	2	4	0	0	3
問2-7	大学でスタッフ等に相談できることは、あなたにとってどれくらい重要ですか	6	2	1	1	0	3
		大変満足	満足	どちらとも いえない	あまり満足 していない	満足していない	未記入
問2-8	講義の内容について	4	5	0	1	0	3
問2-9	大学の開催回数について	2	6	1	1	0	3

意見	健康長寿大学の受講の個人の成果だけでなく、受講者が今後の地域活動に貢献できるような継続する活用につなげる計画はありますか。
回答	<p>大学の中で、フレイル予防の3本柱として「運動」「栄養」「社会参加」を伝えています。ご指摘のとおり、地域活動への貢献が社会参加につながると考えています。講義の中では、社会参加のきっかけとなる事業として以下を紹介しています。</p> <p>○地域包括支援センター実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援ボランティアポイント事業 ・介護予防教室 <p>○社会福祉協議会への委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体サロン活動支援事業 ・元気はつらつサロン <p>前年度の卒業生の一部の方で、住民主体サロンを立ち上げ、継続した活動を実施されています。大学の講義のみで終了するのではなく、卒業後の地域活動へつなげるよう取り組んでいきます。</p>

(2) フレイルチェックアンケート

意見	コロナ下でありましたが、フレイル測定会の実施状況と結果を教えてください。
回答	<p>感染対策を実施し10月31日(日)に測定会を開始し、計27名(男性8名、女性19名、平均年齢68.5歳)が参加されました。</p> <p>フレイルに関する問診、体組成測定、握力、開眼片足立ち、歩行速度等の計測を実施し、フレイル該当者0人、プレフレイル状態4人、フレイル非該当23人の結果となりました。</p>

意見	フレイル測定会ではフレイル予防のための具体的な説明等予防教育はされましたか。
回答	名古屋大学と連携し開催したため、フレイル測定の結果及び必要な運動プログラムを名古屋大学の医師より個別に説明をしていただきました。

(3) 高齢者安心ネットワーク事業

意見	事業の登録者と介護認定の割合が低いのが気になります。
回答	<p>上記事業を、75歳以上(要介護認定者除く)に個別通知した「フレイルチェックアンケート」と一緒に案内をしました。その結果、要介護認定者を除く75歳以上の対象者に事業周知が図れた結果として、ご指摘のと通りの登録状況になっていると思われま。</p> <p>要介護認定者及び74歳未満の対象者への見守りや緊急時対応ができるよう、周知方法を検討し、今後は以下のとおり実施していきます。</p> <p>○要介護認定者の方</p> <p>介護支援専門員を通して周知ができるよう、ケアマネ会などを通し、介護支援専門員から対象者への登録への声掛けを依頼。</p> <p>○74歳未満の方</p> <p>高齢者訪問や介護予防事業などを通じた周知。</p>

意見	事業の普及と体制を構築するための現時点での問題点を教えてください。
回答	<p>事業の普及については一つ前の回答をご参照ください。体制の構築の問題点は、住民の互助を基にした見守り体制の構築を課題として考えています。</p> <p>登録者の見守りを現在は民生委員へ依頼をしておりますが、担当地区を漏れなく把握することは困難であり、民生委員が未選任の地区もあります。</p> <p>今後は、地域住民の互助の意識を高め、近隣住民同士がお互いに見守り、異変時は早期に気づくことができる地域づくりが必要と考えています。しかし、個人情報保護の観点や地域の交流の希薄化、核家族化により、地域のつながりをどのように支援するかが大きな検討課題です。</p> <p>課題の解決に向け、関係機関などから状況を伺い、対応策を検討していきたいと考えています。</p>

意見	登録者で具体的な活用例と有効な活用例数を教えてください。
回答	<p>現在の活用例として「独居の方の姿を見ない」「独居の方の体調が悪そうなので家族に連絡をしてほしい」と近隣住民から町が連絡を受けた際に、状況確認と同時に本事業の登録状況を確認します。</p> <p>緊急時に登録者のご家族に町から連絡をとれた有効例が1件あります。</p>

2. 令和4年度新規事業（案）について

(1) 生活支援体制整備事業について

質問	ウォーキングマップについて。散歩がてら買い物に行く方が、スーパーまで距離があり（特に青山地区）、なかなか行けないという話を聞きます。タウンバスを經由してスーパーまで行くルートを紹介があっても良いかと思えます。
回答	<p>買い物などの移動支援は本町としても課題と捉えています。既存の地域資源として、タウンバスを活用した移動を促進するため、今後、スーパー・病院・サロン会場等の最寄りのバス停やバスの利用方法などの紹介を検討していきます。</p>

意見	先日、80代の方で介護認定を受けていない方がコロナにかかり食事に困っておられた事例がありましたが、そういった方のフォローを町としてできることはなかったのか気になりました。生活支援コーディネーターには期待しています。
回答	<p>自宅療養者に対する配食サービスは県が実施しており、町独自では実施していません。</p> <p>生活支援コーディネーターは、高齢者の生活支援サービスの充実を目的としており、高齢者のニーズに対し介護保険サービスでは対応できない支援のニーズを把握し、地域資源を活用した支援体制の構築を目的としています。</p> <p>例えば買い物に関する既存の地域資源として、民間企業が実施する配達サービス、移動販売などがありますが、住民の方が把握しにくい現状があります。さらに、病気などにより緊急的に支援を必要とする際には、情報がないことにより混乱をきたすことが予想されます。</p> <p>利用できる支援を事前に知り、少しでも困る状況を減らすことができるよう、生活支援コーディネーターは地域資源の把握と情報提供を実施していきます。</p>

意見	町は平成28年度より開始とありますが、現時点での地域課題や検討結果を提示してください。
回答	<p>協議体や関係機関からの意見より、高齢者の外出支援、引きこもり傾向の方への支援、見守り体制の構築が地域課題と捉えています。</p> <p>見守り体制構築の課題に対しては協議体で検討し、令和3年度より「高齢者安心ネットワーク事業」を開始しました。</p> <p>外出支援、引きこもり傾向の方への支援に対しては市内や地域住民と連携した取り組みが必要と考えており、今後は小学校区などで話し合いの場が持てるような取り組みを検討しています。</p>

質問	サロンの増加や生活支援コーディネーター活動に対して、コロナによる制約も考えられる。社会情勢を踏まえて事業が推進できるような計画と生活支援コーディネーター業務例も考えてほしい。
回答	<p>コロナ禍により通常であれば見守りや交流ができた状況が制限され、支援が必要な方が孤立化し重症化する恐れがあります。そのため、コーディネーター活動の中でも特に、独居高齢者・地域等の生活ニーズの把握、支援が必要な方への情報提供、地域内の見守り体制の構築を重点課題としています。</p> <p>具体的には、地区調査として民生委員等と連携した行政区単位のニーズ調査や、移動販売など介護保険外のサービスをまとめた生活支援サービス情報冊子の作成などを実施していきます。</p>